

# 総務教育常任委員会資料

(令和3年12月17日)

## 【件名】

- ・ 令和5年度の県立高等学校の学級減について (高等学校課) …… 2
- ・ 鳥取県立美術館整備運営事業の進捗状況について (美術館整備課) …… 4

教 育 委 員 会

## 令和5年度の県立高等学校の学級減について

令和3年12月17日

高等学校課

今後も続く中学校卒業生の減少に対応するため、次のとおり令和5年度に学級減を実施します。

- (1) 青谷高校における1学級減(3→2学級)
- (2) 岩美高校における1学級減(3→2学級)
- (3) 鳥取中央育英高校における1学級減(4→3学級)

### 1 現状

県内中学校卒業生数は、平成31年度(令和元年度)から令和7年度までの期間に381名減少する。現行の基本方針では生徒数の減少には原則、学級減で対応することとしている。

近年の学級減の状況は、東部地区では、令和2年度に八頭高校、令和3年度に鳥取商業高校の学級減、西部地区では、平成31年度に米子西高校、令和3年度に米子東高校の学級減を行った。中部地区では、平成28年度の倉吉総合産業高校の学級減以降は、学級減を実施していない。

#### <県内中学校卒業生数の減少>

卒業年次	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
全県	5,261人	5,071人	4,934人	4,958人	4,926人	4,707人	4,880人

#### <近年の学級減の状況>

年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
東部	鳥東▲1 青谷▲1		鳥西▲1		鳥工▲1		八頭▲1	鳥商▲1	
中部		倉西▲1	倉総▲1						
西部	日野▲1					米西▲1		米東▲1	

### 2 青谷高校における1学級減

#### (ア) 理由

現行の「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針」では、「1学年3学級の学校について入学者数が2年連続して募集定員の3分の2に満たない場合は、原則として、募集定員を1学年2学級とする。」と定めており、当該基準に合致したため学級減を行う。

平成31年度入試			令和2年度入試			令和3年度入試		
募集定員	入学者数	充足率	募集定員	入学者数	充足率	募集定員	入学者数	充足率
114名	91名	79.8%	114名	57名	50.0%	114名	58名	50.9%

#### (イ) 今後の対応

- 青谷上寺地遺跡を活用した「考古学」系の学びを新たな魅力とし、2年次の「青谷学」における遺跡発掘体験ともつながる「弥生文化探究」を3年次の学校設定科目として設置。「課題探究」とも連携させ学習を充実させていく。
- 全国でも珍しいサーフィンの授業に加えて、鳥の劇場から講師を招いた「地域・環境芸術」など地域資源を活用した体験的な学びにより、県内外の中学生へ向けたアピールポイントを打ち出して学校の特色化を図っていく。

### 3 岩美高校における1学級減

#### (ア) 理由

現行の「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針」では、「1学年3学級の学校について入学者数が2年連続して募集定員の3分の2に満たない場合は、原則として、募集定員を1学年2学級とする。」と定めており、当該基準に合致したため学級減を行う。

平成31年度入試			令和2年度入試			令和3年度入試		
募集定員	入学者数	充足率	募集定員	入学者数	充足率	募集定員	入学者数	充足率
114名	84名	73.7%	114名	58名	50.9%	114名	39名	34.2%

#### (イ) 今後の対応

- 食をテーマにした学びを新たな魅力として、令和3年度から従来の「福祉類型」を「福祉・フード類型」に改編。なお、令和2年度以降、体験入学の際の中学生の選択希望調査では当該類型が最も人気

が高かった。

- 地域を学びのフィールドとした学校設定科目「ジオパーク観光」や「イワッツ・ミッション」等の探究的な学びに加えて、調理師養成施設の無い東部地区にフード系に関する学校設定科目「製菓」及び「健康と栄養」を設置して、特色化を図っていく。

#### 4 鳥取中央育英高校における1学級減

##### (ア) 理由

同校の近年の入学者数の定員割れの状況、東部・西部地区での学級減等の状況、中部地区での生徒数の減少を踏まえ、学級減を行う。

##### <近年の入学者の状況>

定員	H30	H31	R2	R3
普通コース (定員 120名)	123名 (+3名)	111名 (▲9名)	106名 (▲14名)	60名 (▲60名)
体育コース (定員 40名)	37名 (▲3名)	40名 (-)	20名 (▲20名)	23名 (▲17名)

##### <中部地区中学校卒業生数の減少>

卒業年次	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
中部	943人	921人	867人	925人	887人	907人	900人

##### (イ) 今後の対応

- 「地域で生き、地域に貢献できる生徒を育てる学校」を目標とし、地元北栄町、琴浦町との地域連携の協約を生かした学びを展開する。全ての生徒は1年次に「探究」の基礎を学んだ上で、2年次からスポーツ探究類型、未来探究類型、社会探究類型の3つの類型に沿った地域探究学習を深め、同校の伝統であるスポーツ分野や上級学校への進学、地域の企業への就職や公務員等の進路を実現し、将来、地域を実際に支えたり、地域とのつながりを持ち地域を応援する生徒の育成を図る。
- 同校はスポーツ強豪校であることが特色の一つであり、競技実績が高く、部活動のリーダーを務めている生徒は普通コースにも多いという実態があることから、体育コースをスポーツ探究類型に改編することで生徒の選択肢を増やすとともに、学生寮も活用しながら多様な進路希望を持つ県内外の有望なアスリート等の募集につなげる。
- また、部活動における競技者のレベルをさらに向上していくため専門の指導教員（陸上、水球、バレーボール、レスリング、山岳他を想定）を確保し、部活動の競技実績のさらなる向上も図っていく。

#### 5 今後の予定

令和3年12月定例教育委員会に議案として提出（議決後、関係機関に通知）

# 鳥取県立美術館整備運営事業の進捗状況について

令和3年12月17日  
美術館整備局美術館整備課

## 1 県立美術館の整備スケジュール

時期	概要
令和3年1月～	実施設計
令和4年1月	建設工事着工
～令和6年3月	建物完成引渡し
令和6年度	建物枯らし期間・開館準備(収蔵作品移転等)
令和7年春	開館(令和6年度中)

## 2 「みんなで“つくる”県立美術館 建設着工の集い」の実施

県立美術館の建設工事が令和4年1月に着工されることを機に、施主となる鳥取県立美術館パートナーズ株式会社(PFI事業者)と一体となり、地域の関係団体の皆様と共に、「みんなで“つくる”県立美術館 建設着工の集い」(安全祈願祭・起工式、記念講演会など)を実施することにより、情報発信、機運醸成の取組を全県的に進める。

### (1)安全祈願祭・起工式(主催:PFI事業者)

- ・日時 令和4年2月11日(金・祝) 午前11時から正午まで
- ・場所 美術館建設予定地(旧ラグビー場)
- ・出席者 鳥取県立美術館パートナーズ(株)構成企業、鳥取県及び鳥取県議会関係者、地元自治体、県文化団体連合会などに案内状を送付する。

### (2)県立美術館設計事務所による記念講演会

- ・日時 令和4年2月13日(日)午後
- ・場所 倉吉未来中心 大ホール
- ・講師 楨総合計画事務所 長谷川 龍友 取締役副所長
- ・演題 「美術館の「ひろま」が地域を切り開く(仮)」
- ・出席者 安全祈願祭・起工式の出席者に加え、各国会議員、各県会議員、市長会・市議会議長会、町村議会、町村議会議長会、各文化団体、設計・建築関係者、高等教育機関などに案内状を送付するほか、広く県民にも周知する。
- ・その他 記念講演会開催の午前中には、①建築工事に関わる伝統行事(石場から)、②工事期間中設置する仮囲いを活用したアート展示を実施予定

### (3)県立美術館のパス及び楨総合計画事務所の代表作品を紹介する巡回展示

- ・時期 令和4年2月から
- ・場所 倉吉未来中心アトリウムを皮切りに県内各所に巡回展示予定

※このほか、「県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会」も講演会やワークショップを実施予定

## 3 運営に係る主な取組

美術ラーニングセンター(仮称)機能の検討

### (1)県立博物館美術展への小学生のバス招待

美術館開館後の小学4年生(又は3年生)招待に向けて、県立博物館の美術展への招待を先行実施中。今年度は、11～12月に8校・9回 496人を招待した。

12月8日(水)には、県立博物館に招待した鳥取市立美保小学校の児童100人に対して、鳥取短期大学の学生30人が対話型鑑賞のファシリテーターを務めた。

### (2)対話型鑑賞ファシリテーターの養成

「とっとりプラットフォーム5+α」との連携により、県内高等教育機関で対話型鑑賞による鑑賞授業を横展開している(6月14日(月)鳥取短期大学、12月15日(水)米子工業高等専門学校)。

### (3)教員を対象とした研修の開催

11月25日(木)に対話型鑑賞を学ぶ県教育センター主催の専門研修を博物館の美術展を会場に実施した。22人の教員が、本物の美術作品に触れながら、授業での対話型鑑賞の進め方やポイントを学んだ。

### (4)具体的な機能の構築

平成29年度にエキスパート教員等による検討委員会を設置して情報の収集・分析・蓄積等を行っており、具体的な機能や業務内容を県教育委員会関係課でワーキングして、市町村教育委員会や学校などとの利用の調整を進めていく。

## 4 その他

出前説明会を開催するなどして、PFI事業者と一体となって全県的な機運醸成を行っている。

【出前説明会の実績】

文化団体、公民館、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、経済同友会、大学生などに対して、32回(11月末現在)実施した。 ※令和2年度実績30回